

福島県中小企業家同友会

DOYU FUKUSHIMA

vol.548

11

2025

いま、この人 (南会津支部)

五十嵐 弘伸さん

(株)リーバーテック

特集

労使見解50周年 人を生かす経営を 地域から実践する

活動報告・専門委員会だより
いま思うこと

福島県中小企業家同友会 **2025年度スローガン**

21世紀型中小企業づくりを進め 真の人間尊重の社会をめざそう

同友会運動の新しいステージに向けて、
人を生かす経営の実践から確立へ

支部
ニ
ュ
ー
ス

- 郡山支部 / 10月第一地区例会
- 福島支部 / 10月例会
- あたら支部 / 9月例会
- 須賀川支部 / 9月例会
- 会津支部 / 10月例会
- 相双支部 / 9月例会
- 白河支部 / 10月支部例会
- いわき支部 / 10月例会
- 田村支部 / 9月合同例会
- 喜多方支部 / 9月例会
- 南会津支部 / 9月例会

Check 各支部の活動の様子は
こちらをご覧ください



www.fdoyu.or.jp



リーバーテックで手掛けた建造物

に行われており、今では貴重な戦力になっていきます。今後も継続していきたいとお話しされていました。

同友会には南会津支部の設立時から参加し、同年の29期の経営指針を創る会にも参加し、経営指針書をつくられました。困ったときに、この経営指針書を見直して会社の方向性を考えているそうです。社員さんのことを非常に大切にされているんだなあと伝わってきました。



変化を受け入れ 地域と人とともに 進化する

五十嵐弘伸さん

(株)リーバーテック 代表取締役

南会津支部

地域を支える 地元インフラ企業

南会津郡下郷町高崎に本社を置く(株)リーバーテック。創業は先代が1978年に「下郷鉄筋工業所」としてスタートし、1990年に「(有)下郷鉄筋」として法人化。2016年には、工場を南会津町に移転。2022年4月に「(株)リーバーテック」に社名変更し、まもなく創業50年を迎える老舗企業です。

「今までは『鉄筋』の仕事が殆どだったが、社名変更によって鉄筋だけではなく土木工事全般の受注割合が増えていく！」と温厚な表情で語るのは、2020年3月から代表取締役就任されている、五十嵐弘伸さん。変更した社名の由来について、鉄筋は英語で「リーバ

ー」、会社も川の流れるように時代の変化に対応しながら経営していきたいと語ります。「テック」は技術、先代からの技術を活かしながら、地域に貢献したいとお話しされていました。

働きやすい環境を見据えて

リーバーテックさんでは、2022年に健康経営優良事業所2022認定、2023年に、健康経営優良法人2023認定を受けておられますが、それまでも数知れない苦労がありました。一度、多くの社員さんが一斉に退職してしまったことがあり、残った数名で夜中まで鉄筋を組んでいた苦しい経験から、今まで以上に働きやすい会社にしていきたいという熱い思いがあるそうです。また、外国人の技能実習生の受け入れが積極的

挑戦し地域に貢献する

「南会津地域の道路や公共施設の建設を通して地元貢献したい」とお話しされていたのが印象的でした。今でも現場が大好きな五十嵐さんは社員さんよりも率先して現場に行くのでは？

建設現場は先人から受け継いできた手法を後世でも引き継ぐというイメージがありますが、リーバーテックさんでは、ドローンや3次元CADなど新しい分野の技術をすでに導入しています。また、若い世代の社員さんも増えており、その理由は、新しいことに挑戦しながら社員さんを大切にしているからだと思います。採用は社員さんからの紹介が殆どというのにも驚きです。

同友会での出会い、交流に魅力を感じ、前向きな経営をされている(株)リーバーテックの今後が楽しみです。五十嵐さんの温厚な口調の中に、熱い想いを感じました。



(株)リーバーテック

事業内容：建設業
住所：南会津郡下郷町大字高崎字上居平乙 294 番地
TEL：0241-68-2355
FAX：0241-68-2351
資本金：500万円
社員数：22名

レポート／(株)星工務店 星隆行（南会津支部）



いまこの人は
動画でも配信中！

今すぐCHECK!



労使見解 50周年

人を生かす経営を地域から実践する

— 労使見解50周年を迎えて、地域に根ざし、人を生かす経営を広げるために —

1975年1月22日、全国の中小企業家が議論を重ねた「中小企業における労使関係の見解(以下、労使見解)」が発表されました。以来50年、労使見解は「人を生かす経営」の原点として、福島県中小企業家同友会の運動の中でも一貫して大切にされてきました。本特集では、労使見解の歴史的意義と今日的な意味を振り返りながら、福島県の現場で実践される取り組みをご紹介します。



福島県中小企業家同友会
会長 齋藤 紀子

労使見解50周年に寄せて (会長メッセージ)

1975年に発表された「中小企業における労使関係の見解(労使見解)」から50年を迎えるにあたり、私たちが改めて学ぶべきことは、人間を尊重し、共に生きる社会を築く経営の在り方です。人口減少や人材不足、地域経済の変化など、私たちが取り巻く環境は年々厳しさを増

労使見解の意義

1975年(昭和50年)、中同協が発表した「労使見解」は、戦後の高度経済成長が終焉を迎える時期に生まれました。当時の日本社会では「人件費はコスト」と捉え、経営と労働は対立するものと見なされがちでした。その中で「労使見解」は、社員を単なる労働力ではなくかけがえのない「人間」として尊重することこそ、企業の発展の基盤であると明確に打ち出しました。

人を生かす経営とは

労使見解の精神を実践に移し

たものが「人を生かす経営」です。それは、社員一人ひとりの可能性を引き出し、共に成長しながら地域社会に貢献する経営姿勢です。単に理念を語るだけでなく、日々の経営判断や現場での実践に落とし込むことが重要です。

社員との対話、共育活動、地域との協働、こうした営みの積み重ねが、企業の持続的な発展を支えています。こうした実践は、福島各地のエリア活動の中で息づいており、仲間とともに学び合い、支え合う中から「人を生かす経営」が地域に根付き始めています。

エリア活動の意義

広大な福島には、多様な産業と地域性があります。課題や特性はそれぞれ異なり、顔の見える関係づくりや実践的な学び合いはエリア活動なしには成し得ません。

労使見解が示した「人を生かす経営」を福島で根付かせるには、地域ごとに現場での実践を重ね、仲間と共に学び合うこと

が欠かせません。エリア活動は、その最前線を担う場です。

新しいステージに立つ 労使見解

今日、経営環境はますます厳しくなり、採用難・人材定着・賃上げ対応・働き方改革など、多様な課題が福島の中企業にも押し寄せています。こうした状況の中で、労使見解が示す「人間尊重経営」は、現代ではダイバーシティ(多様性)・エクイティ(公平性)・インクルージョン(包摂性)として読み替えることもできます。

人を単なる労働力としてではなく、共に育ち合う仲間として尊重し、地域と共に歩み、社会的責任を果たすこと。その実践こそ、福島から次の50年へと続く「人を生かす経営」の新しいステージです。

この節目を契機に、会員の皆さまが改めて「自分の地域でどんな学びや交流があるのか」を知り、次の50年に向けて積極的に参加いただければ幸いです。

会津エリア

(会津・喜多方・南会津)



逆面接会&若者懇談会(共同求人委員会)

学生と企業が双方向で理解を深める「逆面接会」と「若者懇談会」を実施。若者の価値観や地元就職への意識を知る貴重な機会となりました。企業にとって採用活動のヒントが得られ、今後は接点づくりや魅力発信の強化につなげていきます。

浜エリア

(いわき・相双)



経営指針塾活動(経営労働委員会)

浜エリアでは、いわき支部主催の「経営指針を創る会・いわき塾」を継続開催し、相双支部の仲間も交えて学びの輪を広げています。アドバイザーや受講生同士の交流を深め、県主催の創る会参加促進や補習のみならず、財務・金融セミナーなどの場づくりも行い、学びをさらに深化させています。

県北エリア

(福島・あだたら)



新入社員フォローアップ研修(社員共育委員会)

県北エリアでは、福島支部とあだたら支部が連携し、社員共育委員会として「新入社員フォローアップ研修」を開催しました。社会人としての基本を再確認し、自身の役割を見つめ直す機会を通じて、働くことの面白さや“自分軸”を意識した働き方を学びました。社員共育委員会では、「人を生かす経営」「人間尊重の経営」の実践を目指し、社員一人ひとりの成長を支える取り組みを進めています。

県中・県南エリア

(郡山・須賀川・白河・田村)



「つながるマルシェ」(障がい者委員会)

県中県南エリアでは、郡山・白河支部で培われた障がい者雇用への取り組みを、田村・須賀川支部にも広げることで、地域全体の理解と支援の輪を広げています。郡山支部の第四地区例会、白河支部「つながるマルシェ」、新潟の障がい者雇用の実例を学ぶ移動例会など、障がい者雇用に関心のある企業と、支援団体・行政・地域住民との連携を促進するよう取り組んでいます。

各エリア活動紹介

ここが「人を生かす経営」を学び合う最前線！
地域の個性を生かした各エリアの活動を紹介します。

2025年は、労使見解発表から50年の節目。福島同友会では、「同友会理念」を改めて学び、実践を深める一年とします。労使見解は以下の8項目で構成されています。

1. 経営者の責任
2. 対等な労使関係
3. 労使関係における問題の処理
4. 賃金と労使関係
5. 労使における新しい問題
6. 労使関係の新しい次元への発展
7. 中小企業における労働運動への期待
8. 労使双方にとっての共通課題



「自主・民主・連帯の精神」に立ち返り、エリアごとに学び合いながら、地域から実践を進めていきましょう。

東北初開催！『ネイチャーポジティブ経営のススめ』講座開催

2025年9月17日、県環境委員会は環境省の相澤あゆみ氏を講師に迎え、中小企業経営者向け特別講座「ネイチャーポジティブ経営のススめ」を開催しました。本部事務局とオンラインを併用したハイブリッド形式で行い、6支部から21名の参加がありました。

本講座は、「自然資源を守りながら企業活動を発展させる」という新しい経営視点を学ぶ機会となりました。相澤氏からは、国の最新動向や具体的な実践例が紹介され、自然と経済を両立させる「ネイチャーポジティブ」の考え方をわかりやすく解説いただきました。特に、企業や団体が継続的に取り組む自然や生きものを守る活動を、環境省が「人と自然が共に生きる場所」として認定する制度である『自然共生サイト』に関心が集まり、認定手順や経済的メリットについて多くの質問が寄せられました。相澤氏は「自然保護を経営活動に活かすことが重要であり、東北の豊かな自然を活かした官民連携には大きな可能性があります」と強調しました。

参加者アンケートでは、「初めて聞く内容で刺激になった」「小さな活動から始めることが実現



新しい経営視点としてネイチャーポジティブ経営を学びました



講師の相澤あゆみ氏(環境省)

「第23回障害者問題全国交流会in青森」共に生きるみらいへ

10月9〜10日、第23回障害者問題全国交流会が青森で開催され、福島からは8名が参加しました。

障害者問題全国交流会は、2年に1度、全国各地で開催されます。時代の変化とともに、障がいをもった人だけではない、さまざまな生きづらさ・働きづらさを抱えた人達がいまいます。今年には1975年に発表された「中小企業における労使関係の見解(労使見解)」が50年を迎えることから、今回の5つの分科会は、労使見解、人間尊重の経営、共育、人を生かす経営の実践、そして障がい者問題への理解を深め、新しい時代の働き方について学び合いました。

分科会終了後の懇親会では、せんべい汁などの青森の郷土料理などがふるまわれ、お囃子のリズムに合わせて、跳子が「ラッセラー」と威勢の良い掛け声をかけ合いながら踊るなど、ねぶたの雰囲気に参加者は味わいました。驚くのは、そのあとの2次会も青森同友会で準備されており、150名もの参加者が熱い討論を深夜まで交わっていました。



障全交へ福島同友会から参加しました

2日間を通して、人を活かす経営の実践で「幸せの見える共生社会の実現」をめざすための新しい気づきを学び合った障全交となりました。

納豆嫌い



南元祖白糸本舗 代表取締役 西村 文享さん (会津支部)

皆さんは、納豆を食べられませんか？納豆屋(創業元和2年、納豆製造は弘化時代から)の息子に生まれても私は苦手です。仕事で仕方無く食べるくらいで、好んで食べてはいませんでした。8年前当時は薄利多売でクレ

ームも多発し、会社がコケてしまいました。社員一人の「最高の原料だけで、お客様に喜んでもらえる納豆を造ろう」との声に再スタートしました。そもそも、おいしい納豆を考える以前に納豆嫌いがあまりにも多いことを考えていました。漸く、納豆らしくない納豆、ニオイのし

いま思うこと

会員フリートーク 趣味や事業紹介、仕事のこだわりなど、自由なテーマで執筆いただいています。

置かれていたコンセントを含む機器は全滅、書類が水浸しになって床に散乱するなど酷い状況でした。頭の中が真っ白になり「終わった」と思いました。

当時は1施設の運営でしたが満床の状況で、翌11月にはいわき市郷ヶ丘に2号店の開設を準備していました。市役所からも迅速な受け入れを求める声もあ

り、郷ヶ丘店の開設を早め、既存の施設の利用者を郷ヶ丘の施設で受け入れるべく行動を開始しました。金融機関から新たに借り入れを起こして機器を調達し、利用者のスケジュールを組み直し、なんとか3〜4カ月後には新たな店舗も軌道に乗せることができました。

自分はいわきFCが大好きなのですが、いわきFCには「スポーツを通じて社会価値を創造する」という理念があります。弊社もさらに施設を増やし、介護タクシー事業も拡大させながら、事業を通じて社会価値を創造していきたいと心から願っています。



すれば枝豆で、冬に収穫すれば大豆となります。

常任理事会 報告

(10月7日ハイブリット)

■審議事項

- 議題1. 全県企業家フォーラム今後の開催エリアについて
- 1. 平石秀樹代表理事より、2026年度は会津エリア、2027年度は創立50周年記念式典を郡山で行うため延期、2028年度は東北エリアでの開催との提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題2. 環境委員会公開セミナー(9月17日) 収支の審議
- 1. 大内政雄環境委員長より、環境委員会公開セミナー(9月17日) 収支の提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題3. 環境委員会公開セミナー(10月22日) 開催の審議
- 1. 大内政雄環境委員長より、環境委員会公開セミナー(10月22日) 開催の提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題4. 女性・青年合同8月例会収支の審議
- 1. 遠藤秀輔青年委員長より、女性・青年合同8月例会収支の提案があり、審議の結果、承認した。
- 議題5. 次回常任理事会
- 12月2日13:30
- 協議事項 創立50周に向けて②
- 報告事項 遠藤秀輔青年委員長より、中同協青年部連絡

会開催の案内があった。

報告事項 樋口静克経営労働委員長より、第31期経営指針を創る会の進捗報告があった。

報告事項 曾根佳弘代表理事より、第34期同友会大学の進捗報告があった。

報告事項 高崎文孝副代表理事より、復興庁地域復興マッチング「結の場」の説明があった。

報告事項 鈴木隆将情報管理委員長より、e・doyu利用状況について報告があった。

報告事項 井上祿也政策提言委員長より、全会員景況調査アンケート進捗報告があった。

依頼事項 鈴木成保購買事業委員長、芳賀浩副代表理事より、燃料給油カード普及協力の依頼があった。

依頼事項 遠藤貴司実行委員長、丹野勇雄いわき支部長、第49回全県企業家フォーラムの参加依頼があった。

出席者/齋藤記子、藤原賢一、佐戸川政実、曾根佳弘、渡辺啓治、平石秀樹、香西良浩、鈴木信雅、小椋辰也、高崎文孝、芳賀浩、三津間謙一、小幡広宣、増子国安、丹野勇雄、伊藤一三、荒川健吉、樋口静克、柳田佳子、五十嵐隆男、大内政雄、真部正美、鈴木成保、井上祿也、佐藤光一、鈴木隆将、遠藤秀輔、佐藤智明、遠藤貴司、星文隆、31名。

逆境を力に、挑戦を続ける



南ウエルフューチャー「フィットディ郷ヶ丘」代表取締役 小澤 兼章さん (いわき支部)

2019年10月、「令和元年東日本台風」がいわき市を襲いました。弊社が運営している通所介護施設でも事前の予報から施設入口付近に土のう袋を積み重ねて対策を講じていたものの、50センチの水が上がり、床に設

置されていたコンセントを含む機器は全滅、書類が水浸しになって床に散乱するなど酷い状況

同友エコ アンケートのお願い

環境経営・エネルギーシフト・SDGs

e.doyu



回答はこちらから!



当会は「中小企業家エネルギー宣言」(2016年7月第48回定時総会(大阪))を採択し、中小企業団体ではいち早く環境経営に取り組んでいます。「同友エコ」アンケートは、①その実践状況の把握、②会員企業への環境経営の啓発、③先進的環境経営企業の発掘を目的としています。

昨年度は、2,005社(前年1,764)38同友会(前年34)からご回答いただきました。設問はほぼ昨年同様です。当委員会では、すべての同友会で実施いただけること、応募総数を2030年温暖化ガス排出半減にちなみ、2,030社以上からご回答いただけることを目標にしています。

同友エコの実施によって、各地同友会からは「環境経営に取り組んでいる会員が多数発見できた」「優れた実践事例が発掘できた」などの声が寄せられるようになりました。会長賞、幹事長賞をはじめ受賞された会員の方々も、全国行事での報告を始め、各地で活躍しておられます。ひとりでも多くの全国の会員の方々にご回答いただけますよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

集計結果や内容は中小企業家しんぶんでお知らせします。中同協の政策提言や方針立案にも役立てています。同友会ごとの集計も各地でご活用いただけます。ユニークな活用をされている同友会も増えてきています。皆さまの御協力をよろしくお願い申し上げます。

福島県中小企業家同友会 環境委員長 大内政雄

新 | 会 | 員 | 情 | 報 |

- ①会社名 ②役職 ③住所 ④電話番号
⑤事業内容 ⑥紹介者

入会おめでとうございます!
皆様よろしくお祈りいたします



福島支部

浪木 克文 さん

- ①㈱イノベーションシフト
- ②代表取締役
- ③福島市鎌田字沼前14
- ④090-4340-0965
- ⑤人事コンサルタント業、ゲストハウス観光関連
- ⑥鈴木信雅さん



福島支部

西戸 彰平 さん

- ①㈱サン・ベンディング福島
- ②副部長
- ③福島市飯坂町平野字平田1-7
- ④024-542-4440
- ⑤清涼飲料水販売、自動販売機の再生・修理・設置
- ⑥千葉政行さん



会津支部

菅家 一郎 さん

- ①サムラインティン信夫屋(南)新日本産業
- ②代表取締役
- ③会津若松市東栄町5-19
- ④0242-28-1092
- ⑤ホテル業・貸しビル業
- ⑥今村初子さん



南会津支部

馬場 善長 さん

- ①(南)伊南川商事
- ②代表取締役
- ③南会津郡南会津町界字梨木平149
- ④0241-73-2462
- ⑤産業廃棄物中間処理施設、総合解体作業
- ⑥星隆行さん



南会津支部

渡部 公栄 さん

- ①㈱共栄
- ②代表取締役
- ③南会津郡只見町只見字原619
- ④0241-82-3372
- ⑤配管工
- ⑥星隆行さん



田村支部

影山 聡 さん

- ①㈱リセットプラス
- ②代表取締役
- ③郡山市東原二丁目234
- ④024-983-5280
- ⑤総合リフォーム業、コンテナハウス企画販売
- ⑥久保田齊さん



田村支部

菊地 和裕 さん

- ①㈱菊地住建
- ②代表取締役
- ③田村郡三春町大字実沢字樋ノ入42-3
- ④0247-62-3509
- ⑤建築業、設計業、不動産業
- ⑥武藤武さん



郡山支部

長沼 正人 さん

- ①㈱サンメンテナンス
- ②代表取締役
- ③郡山市御前南3-36-1
- ④024-907-0549
- ⑤清掃業
- ⑥宮崎登志行さん



福島同友会会員数(10月末現在)
1,836名

郡山 455名

福島 380名

あだたら 51名

須賀川 39名

会津 230名

相双 74名

白河 152名

いわき 346名

田村 60名

喜多方 30名

南会津 19名

DOYU FUKUSHIMA

2025年11月号 vol.548

福島県中小企業家同友会

〒963-8005 郡山市清水台1丁目3-8 郡山商工会議所会館5F
本部事務局 / TEL.024-934-3190 FAX.024-934-3089
発行責任者/会長 齋藤 記子
編集責任者/広報報道委員会委員長 佐藤 光一
定価 / 200円
HP:www.fdoyu.or.jp E-mail:f.doyu@fdoyu.or.jp
e.doyu:https://fukushima.e-doyu.jp



行事の確認は e.doyuから!!



事務局通信

10月末をもって同友会事務局を退職させていただくことになりました。新卒で何も分からないまま入局し、その年の経営者交流大会(現在の全県企業家フォーラム)では、大型客船を初めて相馬港に入港させるなど、経営者の皆さんの諦めないパワーと行動力に圧倒されたことを今でも思い出します。

多くの皆さんから、会社のこと、経営のこと、経営者としての誇りと厳しさなどを教えていただくと共に、日々の業務の先にある同友会の「運動」としての大きな展望にも気付かせていただき、そこに向かって会員の皆さんと一緒に進みながら、同友会の事務局としての誇りと希望を持って毎日を過ごすことができた事、何にも代えがたい大切な経験でした。会員、事務局はじめ、これまでに関わり合いを持たせていただきました全ての皆様に、心からの感謝と御礼を申し上げ、退職のご挨拶といたします。(村上智彦)